

## キノコ狩り

緒川村企画課長

内田 義勝



最近、自然食ブームでシイタケ、シメジ等のキノコ類がスーパー等の店舗に並んでいるようである。しかしなんとと言ってもキノコだけは山に自生するものが一番であろう。

私はキノコ狩りを始めて拾数年になるが、健康にはいいし、キノコは取れるし、それをまた分けてやるのが、また楽しい。と言った具合でシーズンになると大変忙しくなる。毎朝5時に起きて5時30分には山に入る。それから約2時間山の中を歩き回り、帰宅して朝食をとり出勤すると言った日々が約20日間続く。従って体重も2～3キロ程度減量でき、ややスリムになる。正に一石二鳥三鳥と言うわけである。

キノコのシーズンはと言えば9月の彼岸から10月の中旬頃までであるが、その内最も盛りの期間は1週間程度である。この盛りの時期は1晩でキノコが1回も2回も大きくなり、同じ場所に毎日行っても取れるときである。然らばこの時期に山に入ればどこにでも出ているかと思うそうではない。山の木の種類によって出るキノコも当然違って来る。大別するとマツタケは松山、シメジ類は雑木山であるが、キノコの王様マツタケも松が松くい虫に荒されて、緒川村でも全滅に近い為にマツタケもほとんど取れない状況である。従って緒川村の場合にはシメジ類が主流である。

「香りマツタケ味シメジ」と言われているが、食べては確かにシメジ類が美味しい。このシメジ類も雑木山を歩けばどこでも見つかるとは限らない。やはり毎年出る場所が決まっている。この毎年出る場所を地方名で「城」と呼んでいるが、この城の数をどれだけ知っているかによってキノコ狩りの上手下手が決まってくる。私の場合は20数ヵ所

自分の持ち城がある。従って下手の部類には属さないかも知れないが、自分の城は夫婦、親子の間でも教えないと言うのが昔からの慣習であると聞いているので、私の場合もこの慣習を守らないとキノコの神様にお目玉を喰うかも知れませんので念の為。

それでは次に山を歩く時の心得を述べてみよう。先ず服装であるが、シャツは長袖のものを着ること。これはやぶ蚊対策。ズボンは厚めのもので靴は長靴類がよい。そして手袋も。これはマムシ対策。私も毎年4～5匹のマムシをつかまえるが、どう言うわけかキノコの出る場所にマムシが多いようである。キノコ狩りに行ってヘビに出合ったら大体マムシと考えた方がよいので要注意。

それでは山のどの辺を歩けばキノコを見つけやすいかと言うと山によっても多少違うが、高い山なら中段あたり、低い山なら峰から下当たりを歩けば初めての山でも見つけることが出来ると思う。次に食べられるキノコと毒キノコとの簡単な見分け方であるが、一般的に茎が良く裂けてその茎が丈夫で折れにくいものは食用出来ると言われているが、一本シメジによく似ているツキヨタケは茎は弱い良く裂けるので間違えて食中毒を起こす例が多いようである。毒キノコ類は色が毒々しく、茎が裂けないのが特徴である。兎も角、取って来たもので自分で自信のないものについては、キノコに詳しい人に判別してもらうなどして、自分で判断しないことが一番大切ではないだろうか。秋晴れの日曜日、家族や友人と一緒に素晴らしい自然の中で汗を流して、キノコ狩りに精を出す。そんな余裕がストレスを解消して明日への活力を生み出すのではないだろうか。みなさんも是非アタックしてみたいかがでしょうか。

【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は、昭和63年8月中に到着した主なものです。ご利用下さい。

閲覧室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
<b>中央省庁関係</b>		コンピューターのあゆみ No.18	情報システム課
昭和62年貯蓄動向調査報告	総務庁	消費者行政の概要 昭和63年度	県民生活課
小売物価統計調査年報 昭和62年	〃	茨城の観光レクリエーションの現況	観光物産課
家計調査年報 昭和62年	〃	茨城県林道関係例規集	林業課
物価レポート '88	経済企画庁	植栽の計画と管理	都市施設課
国民医療費 昭和61年度	厚生省	営繕年報 61.4~62.3	営繕課
配偶関係別生命表 昭和30年~60年	〃	選挙の記録	選挙管理委員会
貿易実態統計表 昭和62年	通商産業省	<b>県内市町村関係</b>	
生コンクリート統計年報 昭和62年	〃	統計つちうら '87. 7~12 No.59	土浦市
昭和63年度版 中小企業施策のあらまし	中小企業庁	統計いしおか 昭和62年版	石岡市
気象年鑑 1988年版	気象庁	<b>都道府県関係</b>	
昭和62年賃金構造基本統計調査報告 第1巻~第4巻	労働省	昭和62年家計調査の結果報	北海道統計課
建築統計年報 昭和63年版	建設省	千葉県市町村別町丁字別人口 昭和63年度	千葉県統計課
建設白書 昭和63年版	〃	昭和62年神奈川県消費者物価指数年報	神奈川県統計課
全国市町村要覧 昭和63年版	自治省	'88統計からみた岐阜県のすがた	岐阜県統計課
公務員白書 昭和63年版	人事院	昭和62年静岡県の景気動向	静岡県統計課
警察白書 昭和63年版	警察庁	昭和63年刊 愛知県統計年鑑	愛知県統計課
<b>茨城県関係</b>		大阪府の人口動向 一解説編一	大阪府統計課
守ろう、きれいな牛久沼	霞ヶ浦対策課	昭和62年奈良県鉱工業生産指数	奈良県調査課
私たちの溜沼 1987	〃	和歌山県統計年鑑	和歌山県統計課
私たちの霞ヶ浦 1987	〃	昭和62年島根県鉱工業生産指数	島根県統計課
霞ヶ浦総合開発	〃	昭和62年広島県人口移動統計調査報告	広島県情報統計課
総務部の概要 昭和63年度	総務課	昭和62年福岡県鉱工業指数	福岡県統計課
茨城県行政組織等規程集	人事課	長崎県のすがた 1988	長崎県情報統計課
昭和63年度予算に関する説明書	財政課	<b>その他</b>	
昭和62年度県税決算調書	税務課	地方財政統計年報	勸地方財務協会
市町村給与事務の手引	地方課		

# 経 済 動 向

## 国内の動き

### ●対韓貿易黒字20%減へ

日本の輸出超過となっている日韓の貿易不均衡が改善し始めた。対韓貿易黒字額は1～7月で28億8000万ドルとなり、関係筋では1988年の黒字額は前年より20%縮小して40億ドル程度におさまるとみている。

韓国の家電製品・衣料品などの品質が向上し対日輸出が増加しているためと考えられる。また、為替相場でウォン

よりも円の方がドルに対して高くなっており、韓国製品の価格競争力も強くなったことが背景にある。

さらに、米国がNIESに対して来年1月から特惠関税を適用しないことを表明するなど圧力を強めており、このため韓国は日本を有力な市場と重視、今後日本との間で水平的分業が一段と進むとみられる。(日経 9月6日付)

### ●日本企業も利益重視へ

通産省は7日、日米の大手製造業を対象に、10年前、現在、10年後の経営目標、販売戦略などを聞いた日米企業行動比較調査をまとめた。これによると日本企業のシェア拡大主義が薄らぎ、米企業と同様に利益を最重視する傾向が強まっている。世界的に市場の急成長が望めず、輸出によ

る売上高の拡大も困難な状況の中で、「円高メリットの活用などで利益を増やして生き延びようと、日本企業の意識が変化している」と通産省はみている。

利益を増やす手段として、日米双方とも商品の高付加価値化や技術開発の強化を重視している。(日経 9月8日付)

### ●就業人口、首都圏に集中

西暦2000年までに就業人口増加数の%が首都圏に集中し、雇用の地域格差は今後も拡大する。日本開発銀行は8日まとめた調査レポートで、こんな試算を明らかにした。

レポートは、内需主導型への経済構造変化を織り込んで2000年までの就業人口増加数を360万人と推計している。そのうえ大都市圏ではサービス業など第3次産業の拡大に伴

って就業人口が集中し、労働需要がひっ迫する反面、機械産業中心の地方圏は海外生産や合理化の進展などで雇用吸収力が低下すると分析。多極分散型国土にするためには地方圏のサービス産業育成がカギになると強調している。

(日経 9月9日付)

## 県内の動き

### ●茨城県内、全市町村で黒字決算

茨城県がまとめた62年度の市町村決算(普通会計)によると、歳入は合わせて6203億600万円(前年比4.8%増)で、歳出は5897億8500万円(同4.4%増)となった。好況を反映して、歳入が大きく伸び、実質収支はすべての市町村で黒字になった。ただ、将来の財政負担となる地方債は種々の事業の実施に伴い、現在高が前年より200億円以上も膨らんだ。

歳入が歳出の伸びを上回って大幅に増えたのは地方税

### ●地価、県南中心に急上昇

国土庁は9月30日、都道府県が7月1日時点で調査した基準地価を発表した。

県全体の前年比上年率5.8%は57年(6.3%)以来の高水準で、中でも東京都心への通勤圏として人気が高まっている県南地域は平均10.7%と他を圧する急上昇ぶり。住宅地の上昇率が10%を超えた9市町村は茎崎町(28.1%)、つく

(前年比8.3%増)と地方交付税(同7.0%増)が順調に伸びたため。そのため実質収支は全団体が黒字となり、単年度収支でも赤字団体が前年度の33団体から31団体へと2団体減少した。財政の弾力性を示す経常収支比率(一般財源に占める人件費および公債費の比率)は71.9%で、前年を2.1ポイント下回り、財政的な余裕は拡大した。

(日経 9月20日付)

ば市(22.8%)、取手市(19.8%)など、いずれも県南地域。商業地も県南勢が上位を占めた。

個別基準地の上昇率をみると、住宅地では55.4%をトップにつくば市が上位5地点を独占。商業地でもつくば市内(45.4%)がトップで、以下、牛久市内(24.5%)、竜ヶ崎市内(24.3%)、取手市内(21.0%)の順。(日経 10月1日付)